

公的年金満足度・経済的満足度・幸福度と金融関連パラメータとの関連： インターネットサーベイによる分析

北村 智紀（ニッセイ基礎研究所）

本稿は、公的年金満足度、経済的満足度及び幸福度と投資意思決定に関連すると言われる行動バイアスを表すパラメータとの関係を独自のサーベイ調査を利用して分析した。公的年金満足度は、現在、次の世代（子供世代）及び前の世代（親の世代）の公的年金に関する満足度を1～10のスケールで尋ねたものである。また、経済的満足度と幸福度についても同様に尋ねている。回答者は30～59歳までの男女で、厚生年金加入者、国民年金加入者、国民年金未納者の3つのグループにわけてデータを取得した。2013年3月にインターネット上でサーベイを実施し回答者数は1728名であった。分析の結果、現在の公的年金満足度に関しては、未納者の満足度が有意に低下していた。未納を解消するには公的年金への満足度を高める施策が必要だと考えられる。上記の3つのグループに共通な要因として、長生きすると考えるほど、過去に良い投資経験を持つほど、グロースバイアス（複利の効果を低く見積もってしまう行動バイアス）が大きいほど、満足度が高まる傾向があった。グロースバイアスの結果は直観とは異なるが、公的年金の財政は将来的に悪化することが予測され、悪化の程度を低く見積もっている者ほど公的年金満足度が高いと考えれば分析結果と整合的である。逆に、株式投資のコストが低いと考える者ほど満足度は低下した。投資コストと比較して公的年金のリターンに満足していない可能性がある。子供世代の満足度に関してはグロースバイアスが大きいほど、親世代の満足度に関してはグロースバイアスが小さいほど、ハイパボリックな時間選好率を持つほど（近視眼的なほど）、自分よりも満足度が高い考える傾向があった。自分とは異なる世代の公的年金を評価する際には一定の行動バイアスがあることが示唆される。経済的満足度に関しては、公的年金満足度と同様な傾向であった。経済的満足度を高めるには老後の生活の基礎となる公的年金制度への満足度を高める必要がある。幸福度に関しては、未納者は自分の10年前や親の世代よりも幸福度が有意に高まっていた。そのため国民年金保険料の納付が今後に進まない可能性がある。上記の3つのグループ共通に、主観的生存確率を除いて金融パラメータと幸福度との関連性は低かった。幸福度の大きさは家族との関係や健康状態等の影響が強いものと思われる¹。

¹ 本研究は中嶋邦夫(ニッセイ基礎研究所)との共同研究である。